

Part 2

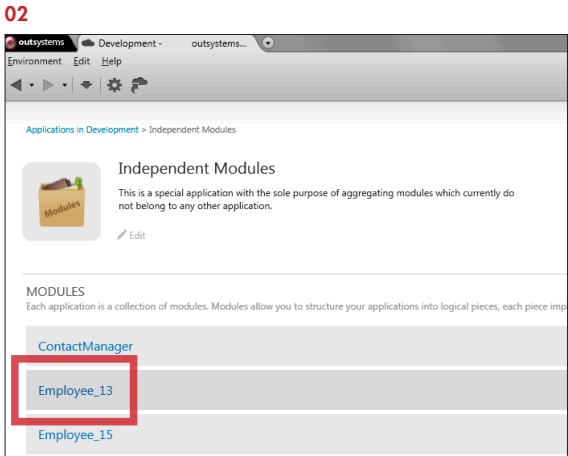
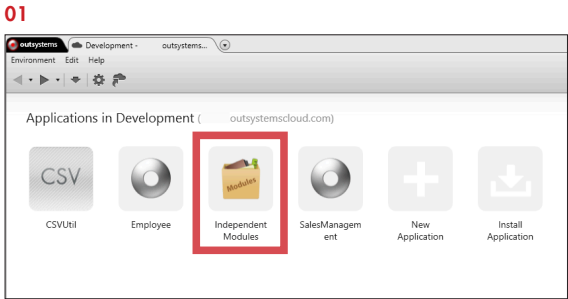
CHAPTER

14

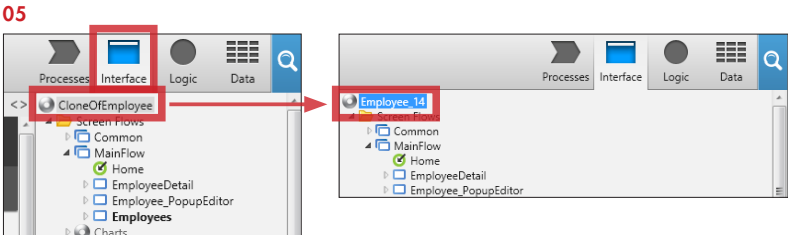
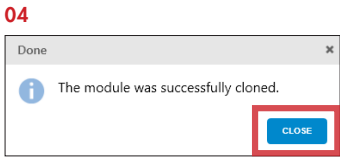
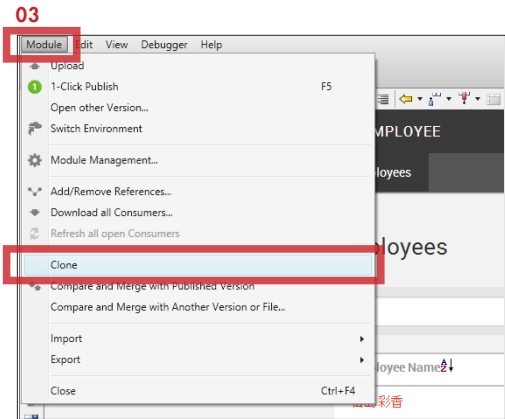
画面のブラッシュアップを行う

アプリケーションの複製を作成する

- 01 「Independent Modules」をクリックする。
- 02 「Chapter 13」にて作成した「Employee_13」アプリケーションモジュールをクリックする。

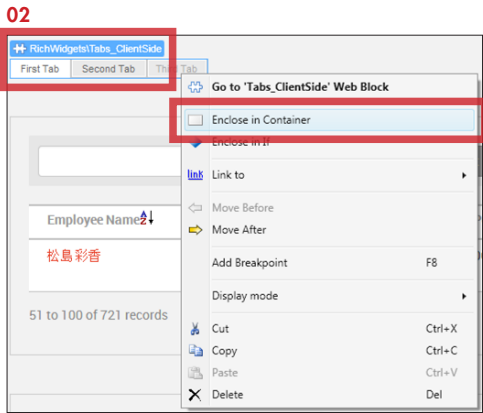
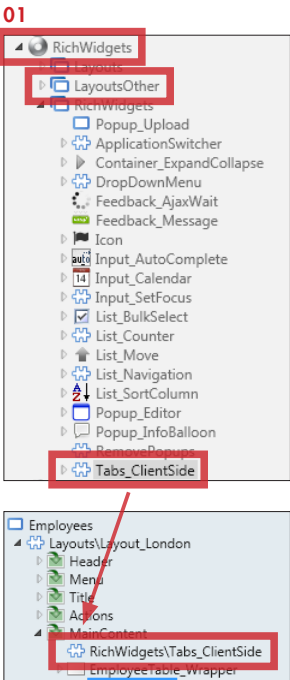


- 03 メニューバーから「Module」 > 「Clone」を選択する。
- 04 出現したダイアログの「CLOSE」ボタンをクリックする。
- 05 Interfaceレイヤを開き、複製されたアプリケーションモジュールの名前を「Clone OfEmployee」から「Employee_14」にリネームする。

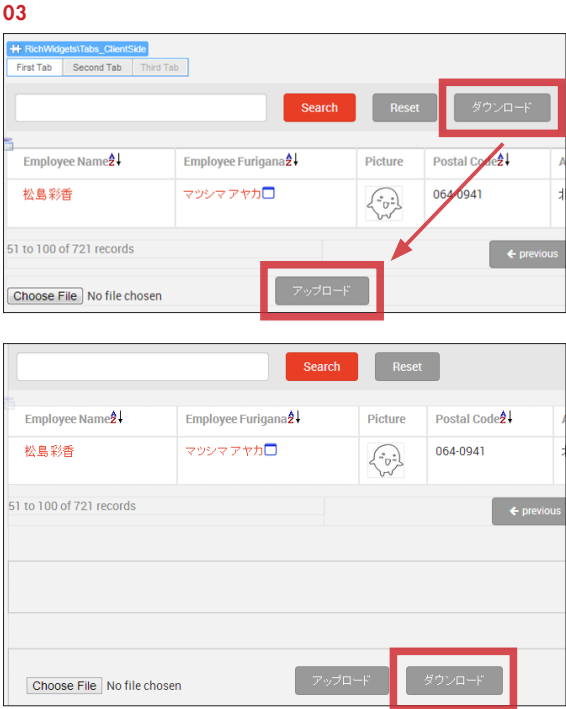


クライアントタブを使用する

- 01 Interface レイアの「RichWidgets」 > 「RichWidgets」 > 「Tabs_ClientSide」を Employees 画面に配置された。EmployeeTable_Wrapper という Container の上に配置する。
- 「Tabs_ClientSide」をドラッグすると、右側のメニューが「Widget Tree」に切り替わるので、「Widget Tree」を見ながら操作します。
- 02 Tabs_ClientSide Widget を右クリックし、「Enclose in Container」を選択する。

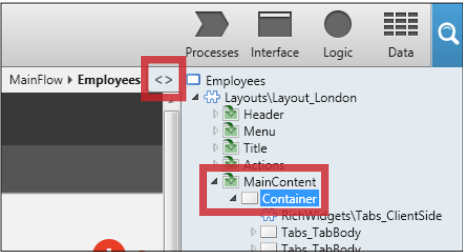


- 03 「ダウンロード」 ボタンを「アップロード」 ボタンの右側に移動する。

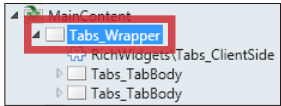
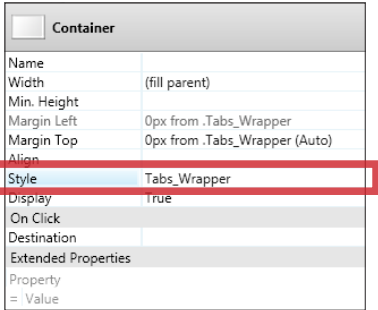


- 04 「Widget Tree」を開く。
- 05 「Main Content」 > 「Container」 を選択する。
- 右下にプロパティが表示されます。
- 06 「Style」 に「Tabs_Wrapper」を追加する。
- 「Container」と表示されていた要素が「Tabs_Wrapper」に変化します。

04・05

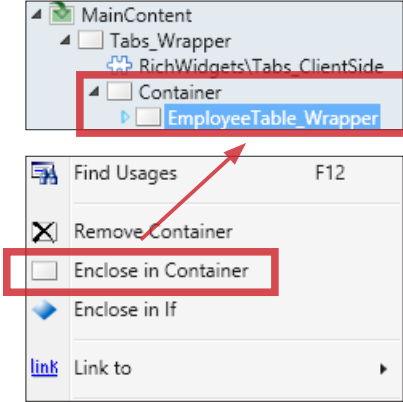
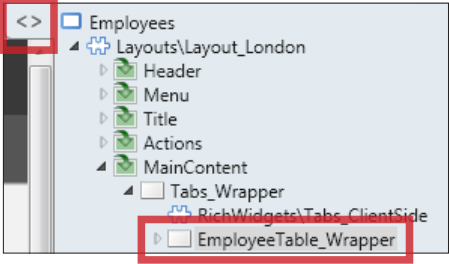


06

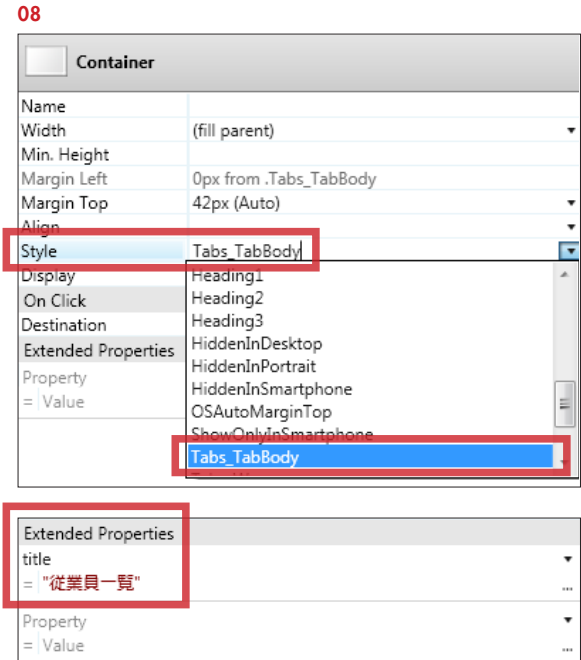


- 07 「Widget Tree」を表示し、「EmployeeTable_Wrapper」右クリックし、「Enclose in Container」を選択する。
- 「EmployeeTable_Wrapper」の上の階層に「Container」が追加されます。
 - Containerのプロパティが右下に表示されます。

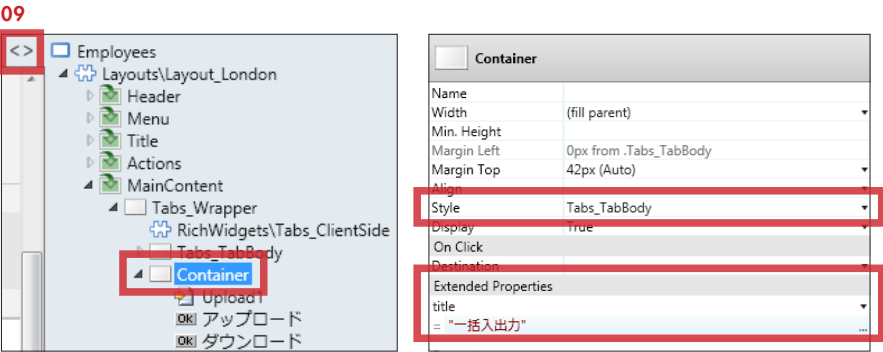
07



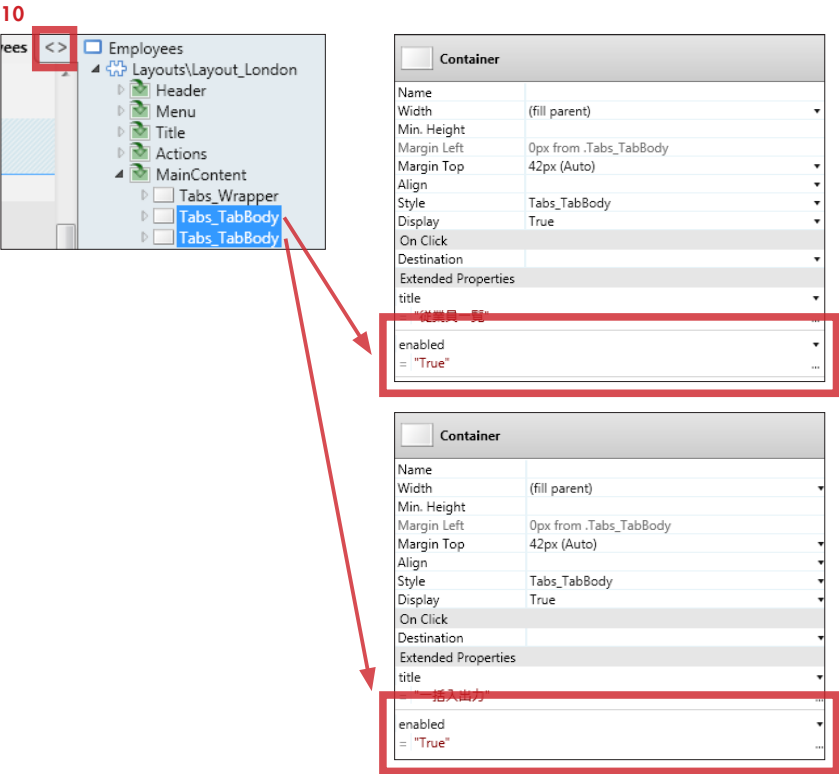
08 「Style」に「Tabs_TabBody」、「Extended Properties」にProperty「title」、Value「"従業員一覧"」を設定する。



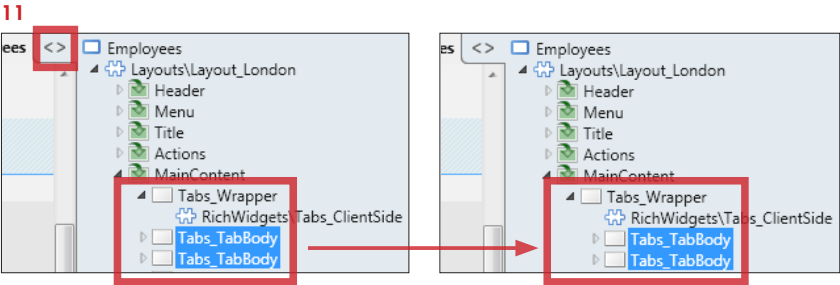
09 アップロード・ダウンロードボタンを内包している。「Container」の「Style」に「Tabs_TabBody」を追加し、Extended PropertiesにProperty「title」、Value「"一括入出力"」を設定する。



10 「Tabs_TabBody」を設定したContainer 2つのExtended PropertiesにそれぞれProperty「enabled」、Value「True」を追加設定する。

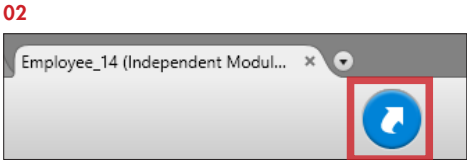
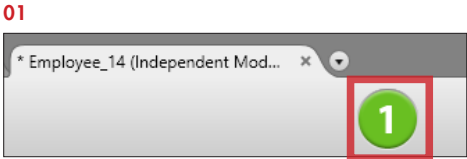


11 「Widgets Tree」を開き「Tabs_Wrapper」の中に2つの「Tabs_TabBody」を移動する。

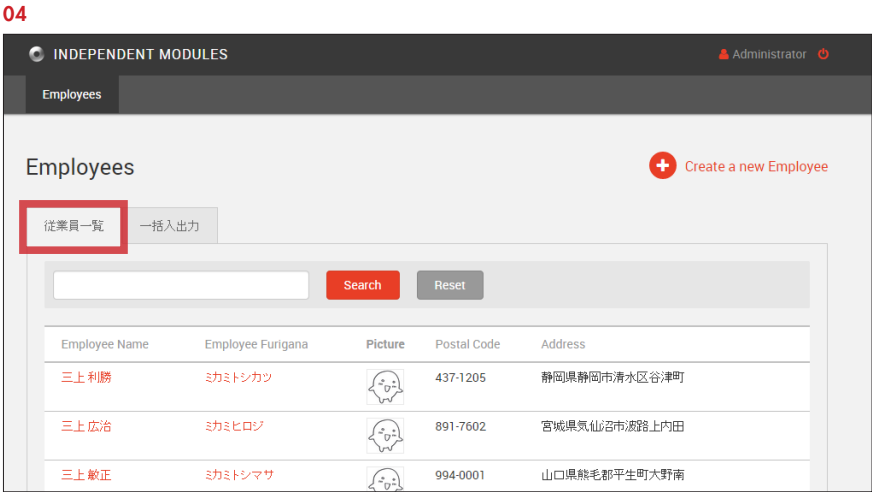


1-Click Publishを行って、アプリケーションの動作を確認する

- 01 1-Click Publish ボタンを押して、Publishを行う。
- 02 Open In Browser ボタンを押して、ブラウザを起動する。
- 03 Employee_14アプリケーションのログイン画面が表示されたら、管理者ユーザでログインする。

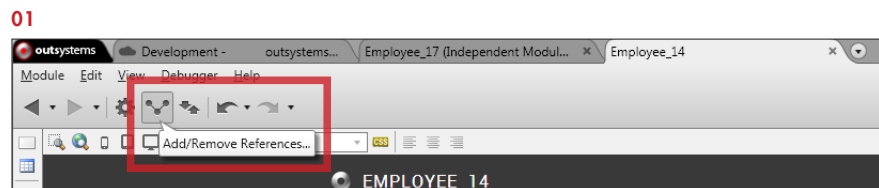


- 04 以下の点を確認する。
 - 2つのタブが表示されます。
 - タブの切り替えができます。

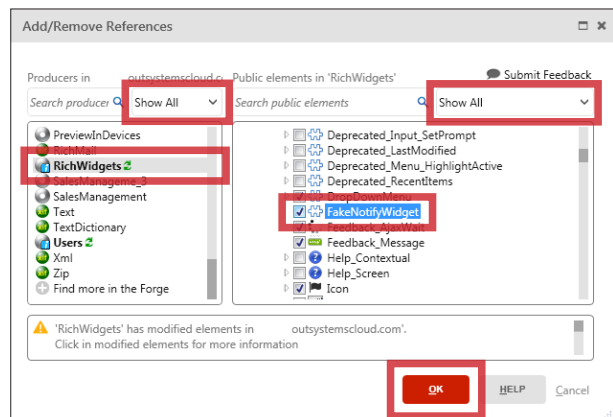


JavaScriptからScreen Actionを呼び出す

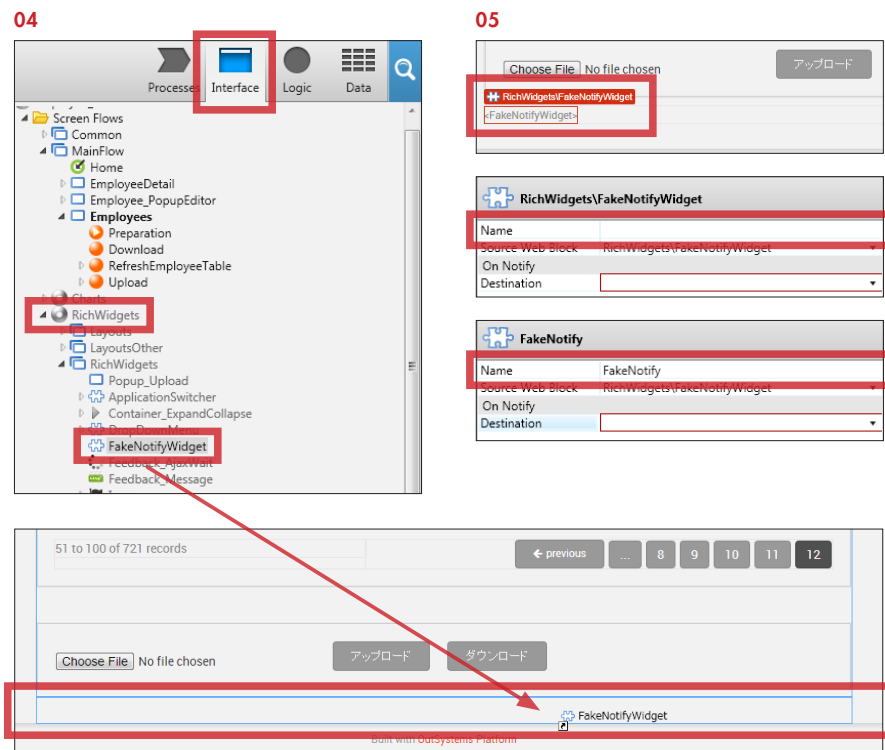
- 01 Service Studio 上部の「参照の追加と削除」をクリックする。
- 02 左上部のプルダウンから「ShowAll」を選択し、左側のモジュール一覧から「Rich Widgets」を選択する。
- 03 右上部のプルダウンから「ShowAll」を選択し、右側のエレメント一覧の「Actions」>「FakeNotifyWidget」にチェックをいれ、「OK」をクリックする。



02・03



- 04 Interfaceレイヤを選択し、「RichWidgets」>「RichWidgets」>「FakeNotifyWidget」をドロップする。
- 05 「FakeNotify」Widgetをクリックし、Nameに「FakeNotify」と設定する。

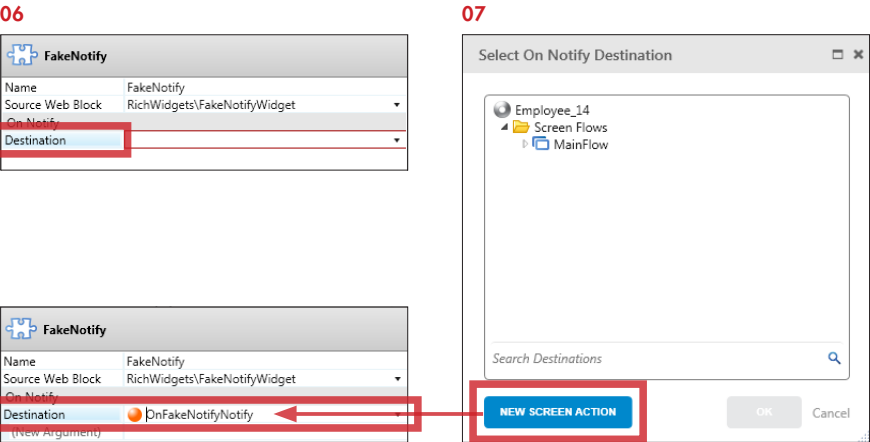


06 「FakeNotify」 Widgetのプロパティ「Destination」をダブルクリックする。

- 「Select On Notify Destination」画面が開きます。

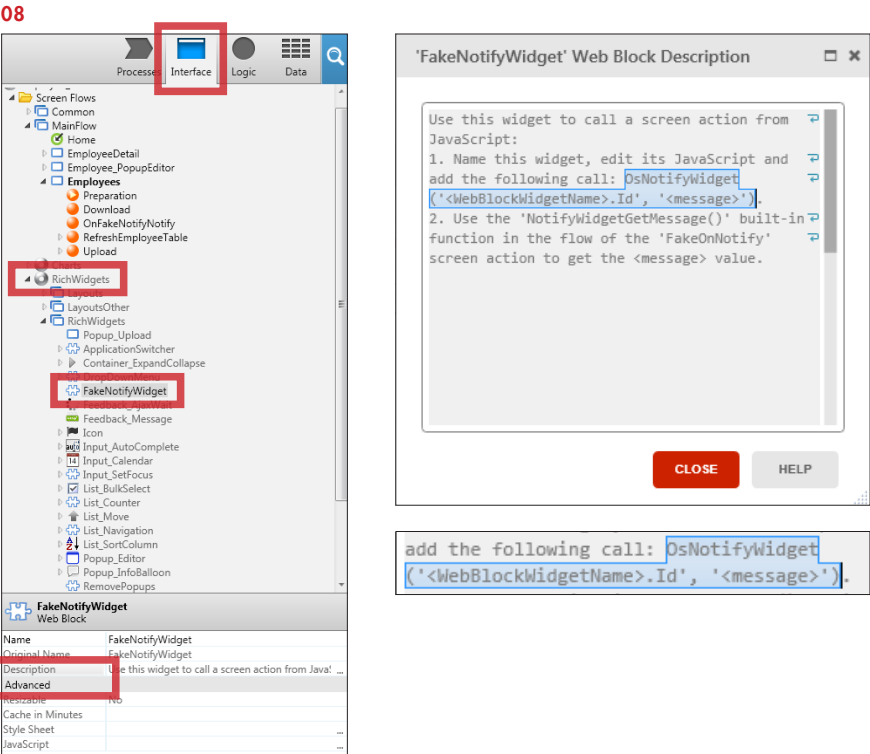
07 「NEW SCREEN ACTION」を選択する。

- 「Destination」に「OnFakeNotifyNotify」が自動設定されます。

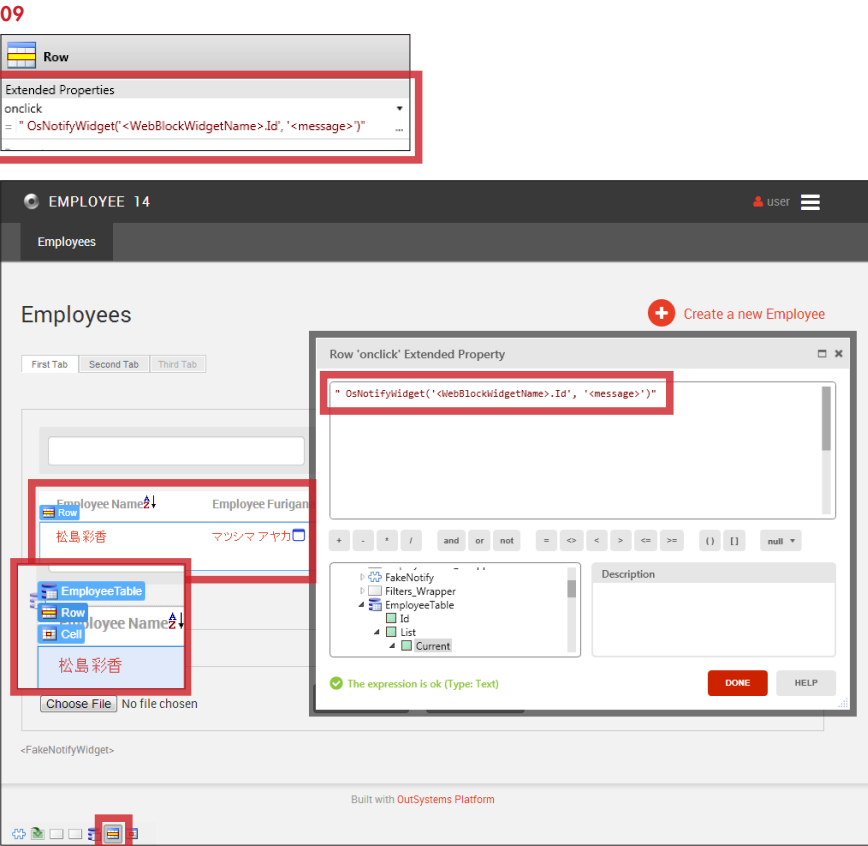


08 Interfaceレイヤの「RichWidgets」を開き、「FakeNotifyWidget」を選択してDescription内のスクリプトをコピーする。

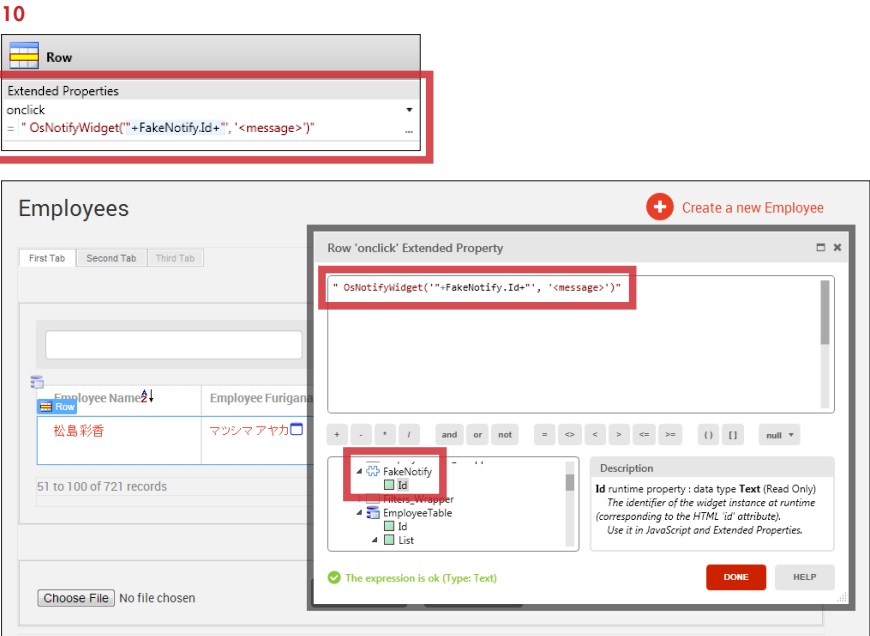
- Descriptionをダブルクリックすると詳細画面が開きます。



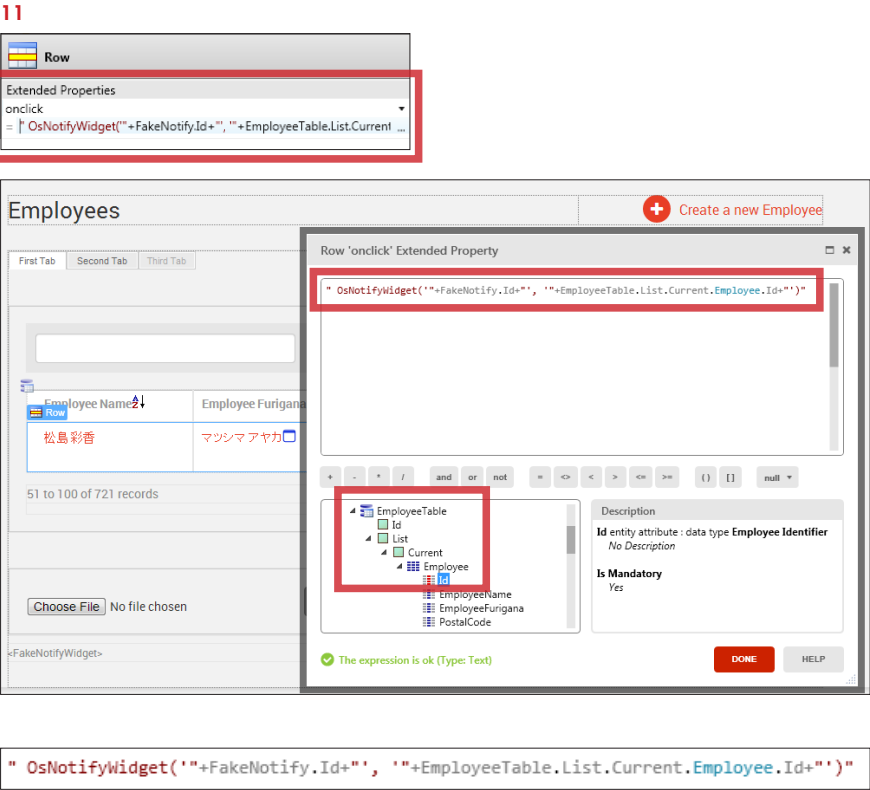
09 「EmployeeTable」の「Row」をクリックし、Extended PropertyにName1「onclick」、Value1に前ページでコピーしたスクリプトを設定する。



10 スクリプト内部「<WebBlockWidgetName>.Id」を先ほど設定したFakeNotify WidgetのName「FakeNotify.Id」に変数として置き換える。

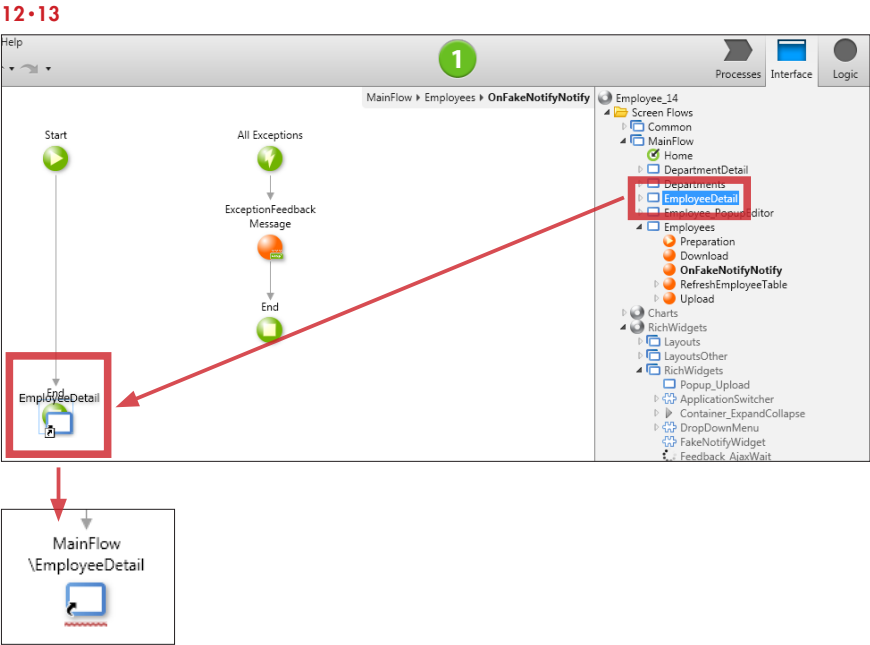


11 スクリプト内部「<message>」をEmployeeTable.List.Current.Employee.Idに置き換える。



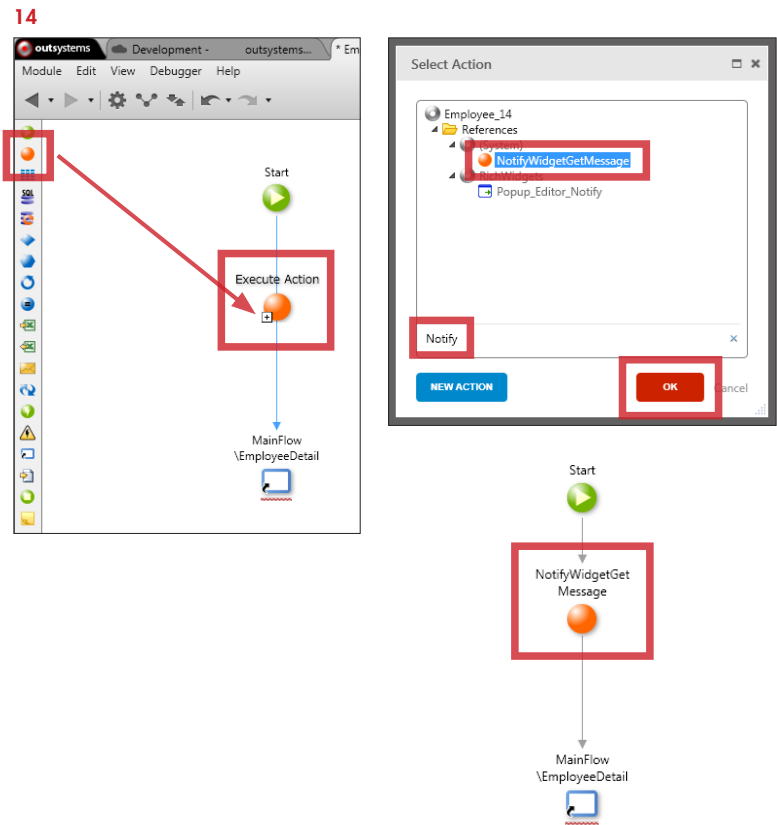
FakeNotifyWidgetに紐付いているScreen Actionが呼び出されたときに画面遷移が起こるよう、Screen Action内に画面遷移処理を実装します。

- 12 「OnFakeNotifyNotify」Screen Actionを開く。
- 13 クリックされた行の詳細画面に遷移するよう、InterfaceレイヤのEmployeeDetail画面をEndアイコンの上にドロップする。



14 NotifyWidgetGetMessage Actionを配置する。

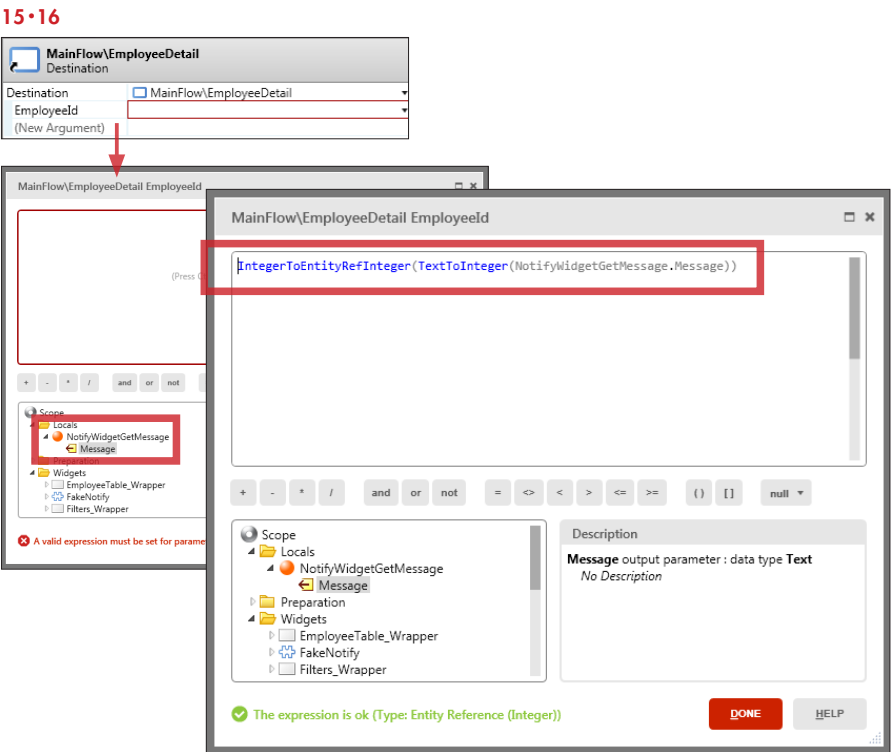
- 選択した行の Employee.Id を受け取ることができます。



EmployeeDetail 画面へのパラメータとして渡すように「Message」に値を設定する。

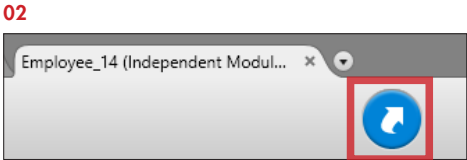
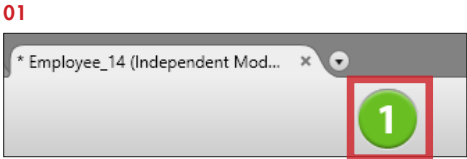
15 MainFlow/EmployeeDetail の EmployeeId をダブルクリックしてエディタを開く。

16 TextToInteger() と IntegerToRefEntityInteger() のキャストを 2 回行う。



1-Click Publishを行って、アプリケーションの動作を確認する

- 01 1-Click Publish ボタンを押して、Publishを行う。
- 02 Open In Browser ボタンを押して、ブラウザを起動する。
- 03 Employee_14アプリケーションのログイン画面が表示されたら、管理者ユーザでログインする。



- 04 アプリケーションをブラウザで開く。
- 05 従業員一覧タブより、表示された行をクリックすることで画面遷移が可能となる。

